

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立海青中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自主的な生徒会活動が活発になったことや、全職員が共通理解し、組織的な生徒指導の実践、開発的な生徒指導を行ったことで、問題行動は減少したが、生徒間トラブル、不登校生徒への対応等、課題は多い。 新型コロナウイルス感染拡大防止対策による行事等の削減により、昨年度は小中連携しての研修が不十分であった。そのため、9年間をスパンとした学力向上に向けての具体的取組が充分だったと言えない。また、人権教育についても小中連携、家庭や地域と連携した取組にさらに力を入れる必要があると考える。
------------------	---

2 学校教育目標	「感謝の心を持ち、自主・自立に向かう生徒の育成」～みんなが楽しい学校に～
----------	--------------------------------------

3 本年度の重点目標	1)授業改善を図り、自ら学ぶ生徒の育成 2)自分から挨拶ができる生徒の育成 3)安心して、学び生活できる集団を作る生徒の育成 4)ボランティア精神にあふれた生徒の育成 5)部活動の活性化
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・学力向上対策評価シートに示した成果指標を達成した教員は60%にも満たなかった。 ・小中連携した研修を進めて、3年間の人権教育総合推進事業の研究発表を行った。	A	・コロナ禍で研究発表ができたことは、高い評価ができる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○指導方法の改善	○「クラスの友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と回答した生徒60%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。	B	・「毎日の授業が理解できている」と回答した生徒が80%。「先生たちはグループ学習をするなど、わかる授業をしてきている」と回答した生徒が89%。 ・コロナ禍でグループ学習を縮小せざるを得なかったが、目標数値を上回ることができた。しかし、数値に表れる学力向上には至っていない。	A	・子どもたちが先生たちの授業に対して、高い評価をしている。学力の向上は、すぐには見られない。長い目で見ていくことも大切である。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいると答える生徒の割合を70%以上にする。	・定期的にGWTやエンカウンターを取り入れ、互いを認め合う授業に取り組む。 ・生徒・教師・保護者による挨拶運動を実施する。 ・ボランティア活動を活性化させる。	A	・「積極的にボランティア活動に参加している」と回答した生徒が69%。「学校行事、生徒会活動、係活動等に積極的に取り組んでいる」と回答した生徒が90%。目標数値を大きく上回った。	A	・子どもたちの回答からも、学校生活に意欲的に取り組んでいる様子が伺える。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当者 ・各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと答える生徒の割合を80%以上にする。	・年2回のhyper-QUの実施の分析・考察を行う。 ・いじめアンケートや心の健康アンケート、日記・学活ノートを通して、早期発見や早期対応を適切に行う。	A	・1月末現在、いじめの認知報告24件。 ・不登校生徒数(30日以上)4名、不登校傾向生徒数(30日未満)3名。 ・「学校が楽しい」と回答した生徒85%。目標数値を上回ることができた。	A	・いじめの事案が発生しても、学校はしっかりと対応している。管理職を中心に組織的な対応がされており、取り組みもよい。	・生徒指導主事 ・各学年主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを多くの場面で意識させ、自己健康管理に活かせるようにする。	A	・「健康に食事は大切である」と回答した生徒80%。今後も家庭と連携して食の大切さを伝えていく。	A	・全ての家庭において、食の大切さについてしっかりと考えてほしい。	・食育担当教員 ・家庭科担当教員 ・養護教諭
	○精神力、技術面の向上を目指した部活動指導	○県大会に出場する部活動を増やす。 ○持久力の数値を昨年度より上げる。	・県大会を目指す機運を高める。 ・体育の授業や部活動を通して体力づくりを推進する。	A	・唐津地区中体連において、団体優勝1、準優勝2、3位1の結果。県大会において準優勝1、九州大会に出場1。 ・唐津地区新人大会において、団体優勝2、準優勝1の成績を残した。	A	・全校生徒221名の中で、これだけの成績を残しているところが素晴らしい。	・体育主任 ・部活動担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・毎週水曜日の定時退勤日の設定。 ・週2日の部活動休業日の設定。 ・学校閉庁日(8/13～8/15、12/29～1/3)の設定。	B	・部活動休業日、定時退勤日の設定を行ったことで、月80時間を超えた職員は少ない。 ・昨年より時間外在等時間は大幅に減少したが、全職員を月45時間以内にすることは難しかった。	B	・コロナ禍での対応の中で、先生方の勤務時間の短縮は難しいと思う。	・管理職
	○学年・学級経営の充実	○PDCAサイクルを取り入れ、hyper-QUの結果を分析・検討して、学級経営に活かす。 ○学年の協働意識を高め、職務の効率化と生徒指導の充実を図り、時間外勤務時間を減らす。	・週1回の学年会の中で、情報交換や協議を行い、共通理解に基づいた協働を推進する。 ・担任等が問題を一人で抱え込まないように、組織的な生徒指導を実践する。	B	・年2回、hyper-QUの結果・分析の研修会を行い、職員間で共通理解を図ることができた。 ・学年会の中で情報交換や協議を行い、生徒指導の充実に活かしているが、時間外勤務の減少までには至っていない。	B	・子どもたち一人ひとりの心の状態、友人関係を全職員で共通理解し、保護者との連携もきちんと取れていることが、落ち着いた学校になっている。	・研究主任 ・各学年主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導・教育相談の確立	○生徒指導の重点指導方針を活かした自己指導力の育成 ○個に応じた支援の推進	○自分のことが好きだと答える生徒の割合を70%以上にする。 ○先生に困ったことや悩みを相談できると答える生徒の割合を75%以上にする。	・生徒会と連携し、生徒の主体的な活動を位置づける。 ・学校教育目標を意識し、「みんなが楽しいとは？」ということを生徒に問いながら、全職員で、生徒同士、生徒と教師が繋がり、互いに尊重し合う態度を育成する。	B	・「先生に困ったことや悩みを相談できる」と回答した生徒72%。目標数値にやや届いていない。 ・「自分のことが好き」と回答した生徒54%。こちらも目標数値を下回った。 ・授業や学校生活の中で生徒の自己肯定感を高める活動を仕組んでいく。	B	・中学生は思春期であり、なかなか自分のことが好きと言えないのではないか。アンケートを取るタイミングによって、回答も変わると思う。	・生徒指導主事 ・教育相談主任 ・生徒会担当教員
○保護者・地域に信頼される学校づくり	○学校安全管理に基づく危機管理体制の整備 ○学校公開と情報提供の推進	○災害発生時に対応できる実践的な避難訓練を定期的に行う。 ○学校教育目標の周知率を90%以上にする。 ○携帯掲示板のアクセス数を100以上にする。	・原動力防災、火災、地震、不審者対応等の避難訓練の実施。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえながら、保護者や地域の方が参加しやすい学校行事を工夫する。 ・適時、携帯掲示板を活用し、情報を発信する。	B	・携帯掲示板のアクセス数は100以上だったが、学校教育目標の周知率は83%で、目標数値には届かなかった。 ・屋内避難訓練、火災・地震対応の避難訓練は実施したが、不審者対応の避難訓練は実施できていない。	B	・コロナ禍で、学校行事を精選しなければならない状況で、避難訓練等の回数を減らさざるを得ないことも仕方ないと思う。しかし、子どもたちには危機意識をしっかり身につけてほしい。	・管理職 ・安全教育担当教員 ・情報教育担当教員
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する研修会を計画的に行い、教員の専門性を向上させる。 ○ケース会議等を充実させ、支援の在り方、支援の方向性を見据えて適切に支援できる教員を増やす。	・個に応じた適切な対応ができるように、外部講師を招聘して専門的知識を習得する研修会を実施する。 ・「個別の指導計画」「個別的教育支援計画」による情報共有を行い、専門機関と連携したケース会議を開くことにより、全ての教員が対応できる環境を整える。	A	・講師を招聘して、特別支援教育に関する研修会を開き、教員の専門性を高めた。 ・支援を要する生徒の実態把握表を作成し、全職員で共通理解を図り、事業によってはSCやSSW、SSFとの連携を図った。	A	・関係機関とも連携を図り、早期対応がなされていると思う。	・特別支援教育コーディネーター ・教育相談主任 ・養護教諭
○教職員の資質の向上	○生徒、保護者、地域から信頼される教職員	○服務規律の厳正を図り、服務規律違反、事故等の発生をゼロにする。 ○出張、休暇、職免等の処理の適正化を図る。	・毎月1日を「服務指導ゼロの日」として、チェックリストを活用し、教職員の意識づけを図る。 ・服務に関して、職員会議等で研修を行う。 ・「信頼される教職員であるために」等の資料を用いて、全職員で研修を深める。	A	・教職員の事故発生はゼロ。 ・出張等の処理も確実にできている。 ・今後も定期的に服務規律の保持について具体的な事例研修を実施し、教職員としての資質向上を図っていく。	A	・これからも先生方の意識の向上に努めてほしい。	・管理職

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・自他を大切に、正しく判断し、行動できる児童生徒の育成～小中連携を基盤とした教育活動を通して～というテーマのもと、中学校区内の3つの小学校と連携を図りながら、研究を進めた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事の削減・縮小で保護者や地域の方々の連携は難しかったが、11月12日に研究発表を行い、校区内の児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。 ・全職員が共通理解のもと、組織的な生徒指導を実践し、問題行動を未然に防ぎ開発的な生徒指導を行ったことで、生徒間暴力や対教師暴力、教師に対する暴言、威嚇、挑発は減少した。また、自主的な生徒会活動も活発で、生徒会からの呼びかけによる花壇の花植えやごみ拾いなど、多くの生徒がボランティアとして参加した。 ・学力の向上、生徒間トラブル、不登校生徒への対応等、課題は多く、今後も小中連携を基盤とした更なる授業改善に努めるとともに、わかる授業、魅力ある授業・学校づくりのために研修を深め、学力向上と生徒指導の充実を図らなければならない。また、子どもたちの学びを止めないためにも、学習用タブレット端末の持ち帰りによる学習指導の充実を進めていく。
----------------	---